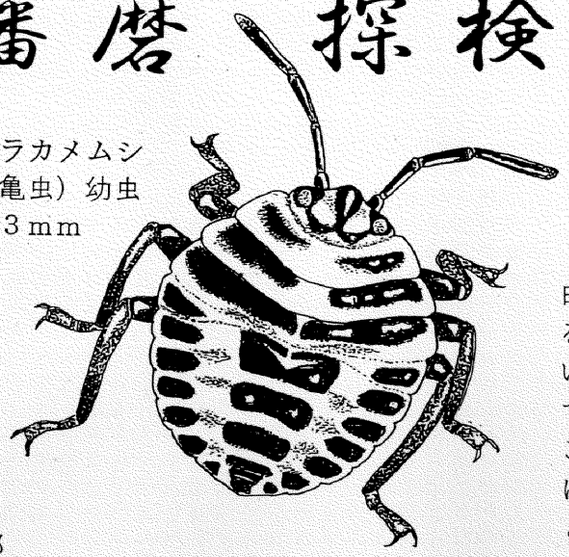
# 播磨探検（はりまたんけん）

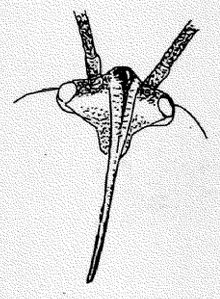
2018.7.4　282号

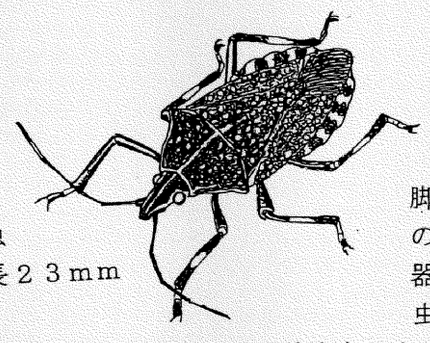
文.え　赤松弘一

キマダラカメムシ
（黄斑亀虫）幼虫
体長３mm



頭部
針のような口器がある





成虫
体長２３mm

６月末、「正体不明の卵？らしきものがあります」という情報が、３年担任の大木先生からもたらされた。見に行ってみると、２組の窓の外にあるハト除けネットの細い糸の上に、１㎜程の白い粒が10個ほどついている。触ってみると硬くてしっかり糸に産み付けられている。「何かの虫の卵らしいけども、孵ってみないことにはわからないな」ということで、ケースに入れて様子を見ることになった。その２日後、「卵が孵りました」との連絡を受けた。

出てきた幼虫はいわゆるイモムシではなく、丸く扁平な身体に脚が生えていた。一見するとダニのようだが、ルーペで詳しく観察すると、脚が６本あり、カメムシの仲間の特徴である針のような長い口器を持っている。カメムシの幼虫に違いないが、派手な黒い横縞模様は初めて見るモノだった。「何カメムシの幼虫なのか、ちょいと調べてみる」ということで写真を撮り、一匹を名刺ケースに入れて持ち帰った。

日本産幼虫図鑑という高価な図鑑を開いてみたが、同じ特徴の幼虫は見つからなかった。仕方ないのでインターネットを利用し探してみると、苦も無く見つかった。これはキマダラカメムシの幼虫であった。ネット検索は便利だが、調べる上で苦労がないので、簡単に忘れてしまうことと、かなりいい加減な情報もあるため、あまり頼りたくはないのだが‥‥

キマダラカメムシは体長が20mmを越える大型の種で、日本で見つかるカメムシとしては最大級だ。サクラやエノキなどの樹木の汁を吸うらしい。東南アジア原産の帰化昆虫で、1770年代に長崎の出島に入って来たというから結構古株だ。５年ほど前の夏に、姫路城西の船場川と中堀の間の道を歩いていた時、サクラか何か樹にいるのを初めて見つけた。その時はキマダラカメムシの存在を知らなかったので、初めて見るその黄色いまだら模様と大きさに威圧感を覚えた記憶がある。その後は各地で頻繁に目撃するようになった。

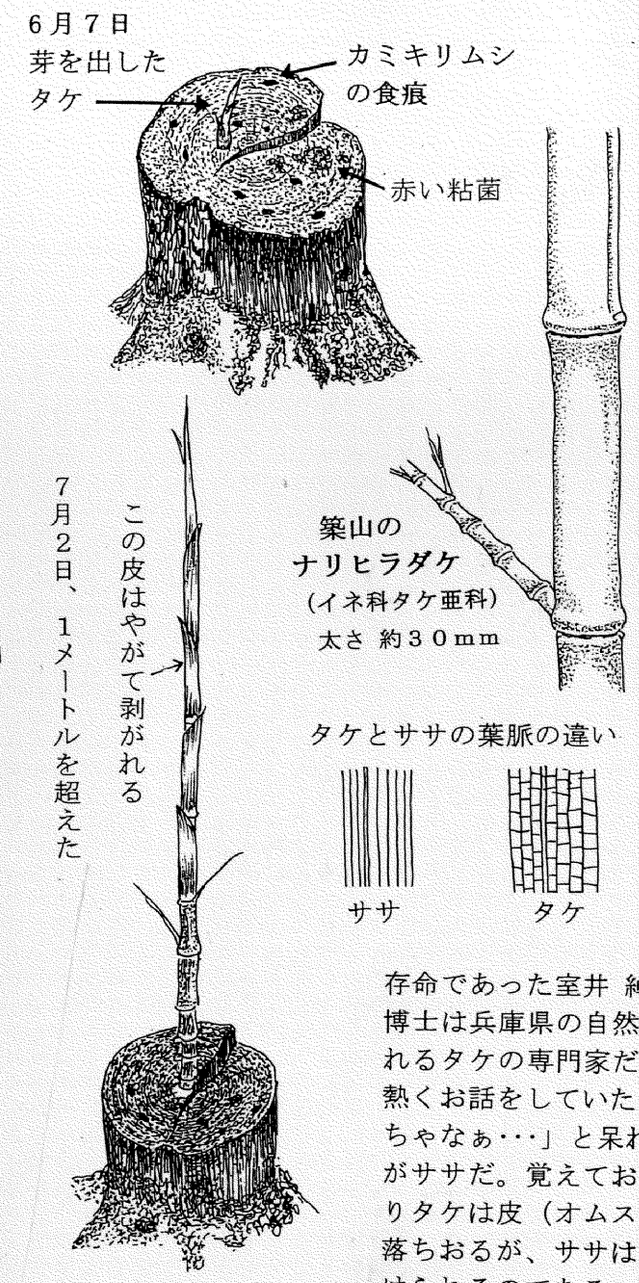
二見北小学校では昨年の夏に東のクヌギの樹にいるのを見つけた。本種は成虫で越冬するが、このような南方系の昆虫が日本で分布を広げていくためには、亜熱帯とは異なる寒い冬を越せることが条件だが、温暖化による日本の暖冬化で越冬が可能になったのだろう。

カメムシは生まれた時から親とほぼ同じ形で、脱皮を繰り返しながら成長し、最後に翅のある成虫になる、いわゆる不完全変態を行う。バッタやコオロギなども同様である。

カメムシの多くは植物の汁を吸うベジタリアンだが、他の生き物の体液を吸うサシガメやタガメなど肉食系の仲間もいる。カメムシに近い仲間のナンキンムシは人の血を吸う。

二見北小学校

# ど根性Bamboo！




今年の近畿の梅雨入りは６月６日で、これは平年より１日早い。その翌日、学校の中庭にある針葉樹らしき木の切り株に赤い粘菌がたくさん出ているのを観察していた。粘菌はキノコに近い仲間で、枯れた植物などについてその養分を吸収して増殖し、やがて子実体という小さなキノコのような組織をつくり胞子をつくる。この子実体は種によって様々な色や形態があり、時には不気味な、時には芸術的美しさを呈する面白い生物である。

その切り株はかなり腐って、一部は崩れそうになっていたのだが、その中心から、ササが芽を出しているのに気付いた。すぐ横には池の築山があり、そこにササが植えられている。どうやらこのササが地下茎を伸ばして腐った切り株を貫いて芽を伸ばし始めたようだった。さっそく「二見北小の根性笹」としてHPに載せたが、この笹の種類が気になって調べてみたところ、この根性笹は実はササではなく、タケであることが分かったのである。

タケとササの違いについては思い出がある。20年ほど前ノジギク（野路菊）について教えを請うために、当時姫路でご存命であった室井 綽（むろい ひろし）博士のお宅を訪問した。博士は兵庫県の自然に精通しておられるが、特に竹博士と呼ばれるタケの専門家だった。様々な生物の不思議な生態について熱くお話をしていただき、「理科教師やのに、何にも知らんやっちゃなぁ･･･」と呆れられつつ、「成長しても皮がはがれないのがササだ。覚えておきたまえ」と言われたのを思い出す。つまりタケは皮（オムスビを包むアレですな）が成長と共に剥がれ落ちおるが、ササはこれが最後まで残るという点で簡単に見分けられるのである。他には葉脈が格子状なのがタケ、平行なのがササ。節から２本の枝が出るのがタケ、３本以上はササなどいくつか違いがある。基本的には小さいのはササ大きいのはタケなのだが、メダケは大きくてタケと名が付くがササなのであるから当てにならない。全くややこしいやっちゃ。

この切り株から芽を出したのは、ナリヒラダケ（業平竹）であると思われる（たぶん）。タケではあるが、七夕にはこの枝に短冊を付けて、ササ飾りとすれば、難しい願い事も根性で叶うのではないだろうか。タケは英名がbamboo（バンブー）なのに対して、ササは英名もsasa（ササ）である。これはタケが中国原産で南アジアの広い範囲に自生したのに対して、ササが日本固有の種だったことに由来する。